



「とやまの畜産関連計画」(目標:令和12年度)について

富山県酪農・肉用牛生産化近代化計画

富山県養豚振興推進計画・富山県養鶏振興推進計画

R5現状 酪農 31戸 2,170頭 / 肉用牛 32戸 3,860頭

養豚 12戸 19,700頭 / 養鶏15戸 707千羽

課題

- 農家の高齢化等による飼養戸数の減少
(酪農 ⑩39戸 1,950頭→⑤31戸 2,170頭、肉用牛:⑩34戸 3,460頭→⑤32戸 3,860頭)
- 生産費(飼料費)の高騰
(去勢肥育牛(北陸)⑩ 393,768円→⑤ 506,101円)
- 離農施設の未活用
(新たな担い手の確保やマッチングの推進)
- 夏場の高温による家畜の生産性の低下
(熱中症による死亡牛> R6.7~8月:11頭、R7.7~8:17頭)
- 「県産牛乳」「とやま和牛 酒粕育ち」のブランド力強化
(国際化、産地間競争に勝ち抜くための特徴づくり)

- 農家の高齢化等による飼養戸数・頭羽数の減少
(養豚:⑩21戸 31,200頭→⑤12戸 19,700頭 鶏:⑩18戸 1,134千羽→⑤15戸 707千羽)
- 環境問題(悪臭・水質汚濁)への対応
(たい肥処理、臭気対策、水質規制への対応支援)
- 畜舎や機器設備の老朽化
(畜舎や機械施設は昭和50年代に整備されたものが多い)
- 輸入飼料(穀物)の高騰、高水準での推移
(配合飼料の価格はR5.4/R2.4比で約1.5倍)
- 「とやまポーク」等のブランド化による販売力強化
(国際化、産地間競争に勝ち抜くための特徴づくり)



振興の基本方針

- (1)肉用牛・酪農経営の持続
(国の事業や性判別精液・受精卵移植技術の活用等による基盤維持・暑熱対策の推進)
- (2)収益性の高い経営の育成、次世代の人材の確保
(牛群の改良、飼養環境の改善、スマート農業技術の活用による省力化)
- (3)家畜排せつ物の適正管理と利用の促進
(堆肥の地域内循環体制・広域流通体制の構築、排せつ物の適正管理)
- (4)国産飼料基盤の強化
(稲WCS等による飼料自給率の向上による生産コストの削減)
- (5)自然災害に強い畜産経営の確立、家畜衛生対策の充実・強化
(非常用電源や家畜共済への加入、できる備えを促進、飼養衛生管理基準の遵守)
- (6)持続的な経営の実現と畜産への信頼・理解の醸成
(HACCP、GAP等の推進、環境に配慮した持続的な畜産経営、畜産物のブランド力強化)

- (1)安全で新鮮な豚肉、鶏卵の提供による販売力の強化
(HACCP方式の衛生管理や飼料用米給餌等、特色を活かした販売を推進)
- (2)担い手の育成確保
(両畜種とも1戸当たりの飼養規模は拡大しているが、更なる拡大を支援する)
- (3)最新の飼養管理を可能とする生産構造の構築
(老朽化した施設を、生産性の向上に繋がるものに改修することを推進)
- (4)家畜衛生対策の強化
(豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等への防疫体制を関係者が一体となって推進)
- (5)環境対策の推進
(住宅地との混在化が進む中、環境と調和した畜産経営を推進)



【目指すべき姿】 意欲ある農家が将来に希望を持ち畜産に取り組める富山県へ
～地域や耕種農家などと畜産農家の絆による畜産振興の実現～

支援策 畜産クラスター事業 + 耕畜連携推進事業 + 県既存振興策 + 令和8年度予算案 を展開

- ☆畜産振興拠点施設整備事業・耕畜連携への取組
畜産クラスター事業(施設整備)に県も上乗せ補助
- ☆各種経営安定・価格補てん対策等の実施
飼料価格高騰対策、牛マルキン、豚マルキン等の実施
- ☆とやまのエコフィード利用畜産物ブランド化推進事業
「とやま和牛 酒粕育ち」のブランド力強化、普及定着

☆規模拡大、新規就農者による農場の新設、継承 ☆家畜改良等による生産能力の維持、向上 ☆稲WCSや飼料用米等による自給率の向上、地域内資源循環の促進

↓

「酪農・肉用牛生産近代化計画」等に盛り込む目標飼養頭数(R5⇒R12)

○乳用牛 2,170頭 ⇒ 2,012頭 ○肉用牛 3,860頭 ⇒ 4,044頭 ○豚 19,700頭 ⇒ 18,400頭 ○採卵鶏 707千羽 ⇒ 800千羽

それぞれの時期に応じた畜産振興策を国の施策を基本に、県でも補完的に展開し、目標達成を目指す。

各畜種別等のポイント

計画策定の考え方

- ①計画期間 令和8年度から令和12年度(現況データ:令和5年度)
- ②作成時の留意点
 - ・農林水産省策定の「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」等との調和
 - ・将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)の中位推計を準用

酪農

- ①管理省力化のための労働の外部化
- ②生産性向上(供用期間の延長)のための優良後継牛の安定確保、能力向上
- ③優良なもと牛の確保のための性判別精液・受精卵移植技術の活用
- ④飼料コスト低減のための稲WCSの利用



	R5		R12
飼養戸数(戸)	31		29
飼養頭数(頭)	2,170		2,012
1戸当たり飼養頭数(頭)	70		69
うち経産牛頭数(頭)	1,640	⇒	1,520
生乳生産量(t)	12,489		12,848
経産牛1頭当たり乳量(kg/頭)	7,615		8,800
自給率(%)	41		45

肉用牛

- ①管理省力化のための放牧活用
- ②生産性向上(出荷頭数の増加及び規模拡大)のための肥育期間の短縮
- ③優良なもと牛の確保のための受精卵移植の推進
- ④飼料コスト低減のための飼料用米、稲WCSの利用

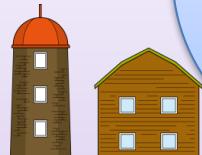


	R5		R12
飼養戸数(戸)	32		32
飼養頭数(頭)	3,860		4,044
1戸当たり飼養頭数(頭)	121		126
出荷頭数(頭)	1,615	⇒	2,055
枝肉生産量(t)	552		741
自給率(%)	13		18

経営基盤の維持・拡大

自給飼料(大家畜のみ)

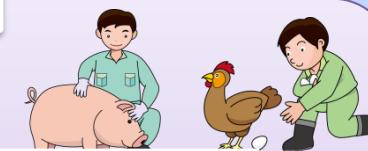
- ①耕畜連携の推進による自給飼料の生産拡大
- ②コントラクターの活用による作業負担の軽減
- ③稲WCS専用品種や飼料用米多収品種の活用
- ④エコフィードの活用



	R5		R12
飼料自給率(%)	27		31
飼料栽培面積(ha)	1,119		1,433
うち稲WCS(ha)	435	⇒	503
放牧面積(ha)	25		25
稲わら回収面積(ha)	57		227
飼料用米面積(ha)	11		11

中小家畜

- ①ブランド力向上のための飼料用米等の利用拡大
- ②海外産との差別化を図るための銘柄化・販売促進
- ③生産基盤強化のための規模拡大と種豚改良



	R5		R12
【養豚】			
飼養戸数(戸)	12		12
飼養頭数(頭)	19,700		18,400
1戸当たり飼養頭数(頭)	1,642	⇒	1,530
枝肉生産量(t)	3,279		3,050
自給率(%)	36		36
【養鶏】			
飼養戸数(戸)	15		15
飼養羽数(千羽)	707		800
1戸当たり飼養羽数(千羽)	47.1	⇒	53.3
生産量(t)	13,139		14,400
自給率(%)	99.3		110

家畜改良目標

【乳用牛】能力に関する目標値(ホルスタイン)

	乳量	乳脂率	無脂乳固形分率	乳蛋白質率	分娩間隔	初産月齢
現在(R5)	8,809kg	3.98%	8.79%	3.33%	15.0か月	25か月
目標(R17)	9,500kg	3.98%	8.79%	3.33%	13.5か月	24か月

【肉用牛】能力に関する目標値(肥育牛 去勢)

	品種	肥育開始月齢	体重	肥育終了月齢	体重	1日増体重	肉質等級
現在(R5)	黒毛和種	9.2か月	307kg	29.5か月	808kg	0.81kg	4.5
	乳用種	7.2か月	308kg	19.3か月	781kg	1.28kg	2.0
	交雑種	8.0か月	311kg	25.8か月	831kg	0.96kg	3.0
目標(R17)	黒毛和種	8.0か月	280kg	27.0か月	775kg	0.86kg	4.0
	乳用種	7.0か月	300kg	18.0か月	785kg	1.45kg	2.0
	交雑種	7.0か月	290kg	24.0か月	835kg	1.05kg	3.0

【養豚】肥育豚の能力に関する目標値

	出荷日齢	出荷体重	飼料要求率
現在(R5)	184日	114kg	2.9
目標(R17)	180日	120kg	2.8

※目標は、国の値に準拠。